

Management bundle for infections related to
injection therapy for diabetic patients

糖尿病患者の注射療法に関する

感染マネジメントバンドル

2023

病院・診療所版

ストラクチャーバンドル
プロセスバンドル

高齢者・介護福祉施設、在宅版

ストラクチャーバンドル
チェックシート

糖尿病患者の注射療法に関する感染ネットワーク

糖尿病患者の注射療法に関する

感染マネジメントバンドル作成ワーキンググループ

委員長：三鴨 廣繁（愛知医科大学大学院）

木下 久美子（関東労災病院）

國島 広之（聖マリアンナ医科大学）

高山 和郎（東京大学医学部附属病院）

田中 永昭（枚方公済病院）

中村 二郎（愛知医科大学）

星野 ゆかり（やまと内科クリニック）

松島 由実（岡波総合病院）

水野 美華（原内科クリニック）

（委員長以下 五十音順）

本バンドルの内容に関し、開示すべきCOIはありません

目次

1	冒頭挨拶	2
	「糖尿病患者の注射療法に関する感染マネジメントバンドル2023」公開にあたって	
2-1	病院・診療所版 ストラクチャーバンドル	3
2-2	病院・診療所版 プロセスバンドル	5
3	高齢者・介護福祉施設、在宅版 ストラクチャーバンドル	9
4	高齢者・介護福祉施設、在宅版 チェックシート	13
5	在宅医療廃棄物についての参考資料	14

「糖尿病患者の注射療法に関する 感染マネジメントバンドル 2023」 公開にあたって

～バンドルの活用ポイントと今後の展望～

糖尿病患者の注射療法に関する感染ネットワーク 代表世話人
糖尿病患者の注射療法に関する感染マネジメントバンドル作成ワーキンググループ 委員長
愛知医科大学大学院医学研究科 臨床感染症学 主任教授

三嶋 廣繁

職業感染制御研究会がまとめた報告書(エビネット日本版サーベイランス2015)によりますと、臨床現場における針刺し・切創の発生件数は年々減少傾向にあるものの、薬剤充填針による針刺し・切創の件数は増加傾向にあるのが現状です。また、本邦では、厚生労働省より通知された「医療機関における院内感染対策について」(平成26年12月19日医政地発1219第1号)において、「(2-3職業感染防止)注射針を使用する際、針刺しによる医療従事者等への感染を防止するため、使用済みの注射針に再びキャップするいわゆる『リキャップ』を原則として禁止し、注射針専用の廃棄容器等を適切に配置するとともに、診療の状況など必要に応じて針刺しの防止に配慮した安全器材の活用を検討するなど、医療従事者等を対象とした適切な感染予防対策を講じること。」と注意喚起されています。しかし、ペン型注入器用注射針に関しては、使用済みの針を取り外す際、専用の針ケースの使用などが必要であり、針刺し事故の発生や針刺し事故のリスクが存在しています。

こうした実態を背景に、2018年に、糖尿病患者の注射手技に関する針刺し損傷とそれに関わる注射用デバイスの準備、廃棄、注射手技および、その関連領域に関する教育、啓発を目的として、医師・薬剤師・看護師が中心となって、糖尿病の専門家と感染症の専門家のマルチソサイアティによる糖尿病患者の注射療法に関する感染ネットワークを結成しました。

「糖尿病患者の注射療法に関する感染マネジメントバンドル」は、臨床現場におけるプラクティカルな予防策を、注射手技、教育、廃棄、針刺し・切創時の対応のフェーズごとにバンドル化することにより針刺し損傷による感染の予防を目指すというものです。

本バンドルは「ストラクチャーバンドル」と「プロセスバンドル」の2つのパートで構成されています。「ストラクチャーバンドル」は原則として病院全体の状況を、そして「プロセスバンドル」は原則として個別の診療プロセス事例での対応状況を評価するものとなっています。

各施設の評価に関しては、「ストラクチャーバンドル」と「プロセスバンドル」を合計するのではなく、それぞれのパートで実施率を出すように設定されています。これにより、各施設で改善すべき項目が明らかになり、個別事例ではどの点を修正していくべきかなどが明らかになると考えています。

また、2021年度版よりパブリックコメントにあったご要望にお応えして、「在宅版 ストラクチャーバンドル」を新設しました。これに伴いまして、既存のバンドルに関しましても改訂を加え「病院・診療所版」とタイトルを一新いたしました。

現在公表しているバンドルは決して完成形ではなく、むしろ現場で医療従事者の皆さまに使用していただき、バンドルを育てていただきたいと考えています。したがって、バンドル内容の改訂についても常に見据えております。

本バンドルを活用いただき、忌憚のない意見を賜りたいと考えています。さらに利用価値が高いバンドル構築および針刺し事故減少を目指していくため、皆さまのご協力をお願いしたいと思います。

「糖尿病患者の注射療法に関する感染マネジメントバンドル」
のダウンロードはこちらのアドレスもしくは二次元コードから

 www.bdj.co.jp/s/dcbundle/

※ご意見、ご質問は、HP内のお問い合わせフォームより承っております。



病院・診療所版 ストラクチャーバンドルの目的と説明

- ・ 病院・診療所版 ストラクチャーバンドルは、原則として糖尿病患者の注射療法に関する、医療従事者の針刺し・切創による感染を防止するために病院全体の状況(体制、物品、環境など)を評価することを目的としています。

チェックボックスの説明

- ・ それぞれの項目に該当しているかどうかを原則として「Yes」「No」で記録します。

実施率の算出方法

- ・ 実施率の欄には各項目ごとに「Yes/No」の総数を分母とし「Yes」の数を分子として算出します。

I 医療従事者が患者に注射する際の注射手技

I-①	インスリン注入器（薬剤：インスリンペン型注入器、カートリッジ、バイアル、針付きペン型注入器針：インスリン注入器用注射針、安全機構のついたペン型注入器用注射針、インスリン専用シリンジ、インスリンポンプ構成）の医療従事者の針刺し・切創および感染を防止するための基準手順・マニュアルがある。	☐ Yes ☐ No
I-②	安全機構のついたペン型注入器用注射針を導入している。	☐ Yes ☐ No
I-③	安全機構のついたペン型注入器用注射針を導入していない施設では、注射針をペン型注入器から外す際、専用補助具や針リムーバー付き廃棄容器を使用している。	☐ Yes ☐ No

II 教育

II-①	医療従事者が患者に注射するための糖尿病治療専用の注射手技教育方法の施設ごとの基準手順・マニュアルがある。	☐ Yes ☐ No
II-②	医療従事者が患者に注射するための糖尿病治療専用の注射手技教育方法の施設ごとの基準手順・マニュアルは施設で統一されたものを使用している。	☐ Yes ☐ No
II-③	安全機構のついたペン型注入器用注射針の使用法についての基準手順・マニュアルがある、もしくは使用手順が施設内で統一されている。	☐ Yes ☐ No
II-④	糖尿病注射手技練習用の教育プログラムがあり、対象の医療従事者は全員受講できるように設定されている。	☐ Yes ☐ No
II-⑤	II-①～③で示した基準手順・マニュアル以外にも自己注射教育ツール（注射ローテーションシート、人工皮膚モデルなど）の練習用物品を用意している。	☐ Yes ☐ No
II-⑥	医療従事者に注射針およびインスリン専用シリンジを再使用しないように教育している。	☐ Yes ☐ No
II-⑦	患者向けの自己注射練習方法や手順の見直しを定期的に行っている。	☐ Yes ☐ No
II-⑧	患者の自己注射練習後、注射手技のフォローアップを定期的に行っている。	☐ Yes ☐ No
II-⑨	針刺し防止のための基準手順・マニュアルがあり、全職員に周知徹底されている。	☐ Yes ☐ No

III 廃棄

III-①	インスリン専用シリンジの使用後は、リキャップせずに廃棄するよう医療従事者に周知されている。	☐ Yes ☐ No
III-②	安全機構のついたペン型注入器用注射針を導入していない施設では、ペン型注入器による注射後の注射針の廃棄は、針刺し・切創を起こさないための対策を講じている（注射針をペン型注入器から外す際に、専用補助具を、各患者専用に使用しているなど）。	☐ Yes ☐ No
III-③	注射後の注射針の廃棄に使用する鋭利器材専用廃棄容器は、患者ごとの専用にしている。	☐ Yes ☐ No

III-④	鋭利器材専用廃棄容器は、容量の8割程度を目途に新しい廃棄容器へ交換している。	☐ Yes ☐ No
III-⑤	患者に、地方公共団体ごとの在宅医療廃棄物〔使用済みのインスリン注入器（薬剤：インスリンペン型注入器、カートリッジ、バイアル、針付きペン型注入器 針：インスリン注入器用注射針、安全機構のついたペン型注入器用注射針、インスリン専用シリンジ、インスリンポンプ構成成分）〕として収集できるゴミおよび収集方法を理解した上で、自宅における廃棄および回収方法を説明している。	☐ Yes ☐ No
III-⑥	患者に、外出先での在宅医療廃棄物〔使用済みのインスリン注入器（薬剤：インスリンペン型注入器、カートリッジ、バイアル、針付きペン型注入器 針：インスリン注入器用注射針、安全機構のついたペン型注入器用注射針、インスリン専用シリンジ、インスリンポンプ構成成分）〕の廃棄（管理）方法について説明している。	☐ Yes ☐ No

IV 針刺し・切創時の対応

【平常時からの対応】

IV-①	針刺し・切創の感染対策は、担当の部門を明確にした上で組織的に行っている。	☐ Yes ☐ No
IV-②	針刺し・切創時の対応に関する基準手順・マニュアルがある。	☐ Yes ☐ No
IV-③	針刺し・切創の危険性や感染対策について、教育を実施している。	☐ Yes ☐ No
IV-④	針刺しによるHBV感染を予防するため、ウイルス抗体の獲得を促進する取り組みを実施している。	☐ Yes ☐ No
IV-⑤	針刺し・切創が発生した場合、24時間血液検査が実施、相談できる体制を整えている（院外を含む）。	☐ Yes ☐ No
IV-⑥	針刺し・切創が発生した場合にエピネット日本版 ¹⁾ 等を使用した報告体制を整え、職員に周知している。	☐ Yes ☐ No
IV-⑦	針刺し・切創が発生した場合、ウイルス抗体の有無を確認できる体制を整えている。	☐ Yes ☐ No
IV-⑧	針刺し・切創が発生した場合、可及的かつ速やかに受診するなど、事後措置体制を整備している。	☐ Yes ☐ No

【針刺し・切創発生時の対応】

IV-⑨	針刺しや切創が発生してすぐに、上長もしくは感染管理の担当者に報告および相談できる体制がある。	☐ Yes ☐ No
IV-⑩	針刺し・切創が発生した場合、即座にウイルス抗体の有無を確認できる。	☐ Yes ☐ No
IV-⑪	針刺し・切創が発生した場合、可及的かつ速やかに受診できる。	☐ Yes ☐ No
IV-⑫	必要時に投与する薬剤が処方される体制を整えている（院外を含む）。	☐ Yes ☐ No
IV-⑬	エピネット日本版 ¹⁾ 等の報告様式を用いて、針刺し・切創の状況を報告し、フォローアップや改善するための体制がある。	☐ Yes ☐ No

1) エピネット日本版は、職業感染制御研究会から発行されている血液・体液曝露報告書式である。
詳しくは職業感染制御研究会ホームページを参照のこと。
<http://jrigoicp.umin.ac.jp/index.html>



二次元コード→

医療従事者が患者に注射 （自己注射介助）する際の注射手技	項目/	3項目	実施率	%
教育	項目/	9項目	実施率	%
廃棄	項目/	6項目	実施率	%
針刺し・切創時の対応	項目/	13項目	実施率	%
病院／診療所版 ストラクチャー合計	項目/	31項目	実施率平均	%

病院・診療所版 プロセスバンドルの目的と説明

- ・ 病院・診療所版 プロセスバンドルは、原則として糖尿病患者の注射療法に関する、医療従事者の針刺し・切創による感染を防止するために必要である個別の診療プロセスを確認することを目的としています。

チェックボックスの説明

- ・ それぞれの項目に該当しているかどうかを原則として「Yes」「No」で記録します。
- ・ 症例や施設が記載された項目に該当しない場合は、「該当せず」で記録します。

実施率の算出方法

- ・ 実施率の欄には各項目ごとに「該当せず」を省いた「Yes/No」の総数を分母とし「Yes」の数を分子として算出します。

I 医療従事者が患者に注射する際の注射手技

I-①	ペン型注入器用注射針による注射手技についての知識と技能を十分習得しており、注射手技を実施できていることを確認した。(内容:注射針の着脱、清潔操作、注射針の廃棄)	☐ Yes ☐ No
I-②	安全機構のついたペン型注入器用注射針による注射手技についての知識と技能を十分習得しており、注射手技を実施できていることを確認した。(内容:注射針の着脱、清潔操作、注射針の廃棄)	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
I-③	インスリン専用シリンジを使用した注射手技についての知識と技能を十分習得しており、注射手技を実施できていることを確認した。(内容:清潔操作、注射針の廃棄)	☐ Yes ☐ No
I-④	自己注射介助時は手袋を着用した。	☐ Yes ☐ No

II 教育

II-①	注射療法についての知識と技能を十分に習得している、または習得している責任者が監督していることを確認した。(内容:注射療法の種類と作用、注射タイミング、注射針の着脱、注射部位、試し打ち、注射後の保持時間、廃棄、保管方法、ポンプやカートリッジの操作方法)	☐ Yes ☐ No
II-②	患者がどのように理解しているか確認し、必要時には家族(介助者および保護者など)の支援者にも説明した。	☐ Yes ☐ No
II-③	統一された説明方法で患者および介助者(保護者)へ説明した。(少なくとも下記の項目を含む) ①患者の注射針を含む使用後の在宅医療廃棄物について、地方公共団体の規則に沿った廃棄方法を周知した。 ②個別に対応可能な説明用の文書を患者および介助者(保護者)に渡した。 ③逆血防止のための注射後の針の抜き方を患者および介助者(保護者)に説明した。 ④周囲(血糖測定器やノートなど)に血液汚染しないよう患者および介助者(保護者)に説明した。	☐ Yes ☐ No ※①～④すべて できてYes
II-④	安全な注射針の着脱方法を患者に説明した。	☐ Yes ☐ No
II-⑤	注射針(安全機構のついたペン型注入器用注射針以外)はリキャップして廃棄するよう患者に説明した。	☐ Yes ☐ No
II-⑥	使用済み注射針は、一般家庭ごみに捨てたりせず、毎回、しっかりとフタのできる硬い耐貫通性容器に廃棄するよう患者に説明した。	☐ Yes ☐ No
II-⑦	使用済み注射針は耐貫通性容器に廃棄をし、医療機関から指示された場所へ適切に届けるよう患者に説明した。	☐ Yes ☐ No
II-⑧	外出時に使用した注射針は、耐貫通性容器に保管して持ち帰るように患者に説明した。	☐ Yes ☐ No
II-⑨	患者および介助者(保護者)への説明内容について定期的に確認、見直しを行っている。	☐ Yes ☐ No

III 廃棄

III-①	患者への注射時は鋭利器材専用廃棄容器を携行し、注射針を取り外したタイミングで速やかに廃棄した。	☐ Yes ☐ No
III-②	医療従事者がインスリン専用シリンジを使用した後は、リキャップせずに廃棄した。	☐ Yes ☐ No
III-③	医療従事者はペン型注入器使用后、専用補助具や針リムーバー付きの鋭利器材専用廃棄容器を用いて、リキャップせずに注射針を廃棄した。	☐ Yes ☐ No
III-④	患者に、在宅医療廃棄物〔使用済みのインスリン注入器（薬剤：インスリンペン型注入器、カートリッジ、バイアル、針付きペン型注入器 針：インスリン注入器用注射針、安全機構のついたペン型注入器用注射針、インスリン専用シリンジ、インスリンポンプ構成体）〕の自宅における廃棄および回収方法について説明した。	☐ Yes ☐ No
III-⑤	外来受診時などに、在宅医療廃棄物を適切に廃棄できているか確認した。	☐ Yes ☐ No
III-⑥	患者に、外出先での在宅医療廃棄物〔使用済みのインスリン注入器（薬剤：インスリンペン型注入器、カートリッジ、バイアル、針付きペン型注入器針：インスリン注入器用注射針、安全機構のついたペン型注入器用注射針、インスリン専用シリンジ、インスリンポンプ構成体）〕の廃棄（管理）方法について説明した。	☐ Yes ☐ No

IV 針刺し・切創時の対応

【平常時からの対応】

IV-①	針刺し・切創の危険性や予防対策についての研修会に定期的に参加している。	☐ Yes ☐ No
IV-②	針刺し・切創時の対応手順書・マニュアルの存在と保管場所を知っている。	☐ Yes ☐ No

【針刺し・切創発生時の対応】

IV-③	受傷部位を流水で洗い流した。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
IV-④	汚染源の感染性、および自身のウイルス抗体の有無を確認した。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
IV-⑤	可及的かつ速やかに受診し、必要に応じた検査や処置（薬剤投与など）を受けた。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
IV-⑥	決められた体制に沿って、上長もしくは感染管理の担当者に報告した。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
IV-⑦	家族が使用済みの注射針で針刺しをした場合は、患者本人が医療機関を受診する際に、担当医師に相談した。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず

医療従事者が患者に注射（自己注射介助）する際の注射手技	項目/ 4項目	実施率	%
教育	項目/ 9項目	実施率	%
廃棄	項目/ 6項目	実施率	%
針刺し・切創時の対応	項目/ 7項目	実施率	%
病院／診療所版 プロセス合計	項目/ 26項目	実施率平均	%

Handwriting practice lines consisting of 28 horizontal dotted lines.



Management bundle for infections related to
injection therapy for diabetic patients

糖尿病患者の注射療法に関する 感染マネジメントバンドル 2023

高齢者・介護福祉施設、在宅版
ストラクチャーバンドル
チェックシート

糖尿病患者の注射療法に関する感染ネットワーク
糖尿病患者の注射療法に関する
感染マネジメントバンドル作成ワーキンググループ

委員長：三鴨 廣繁（愛知医科大学大学院）

木下 久美子（関東労災病院）

國島 広之（聖マリアンナ医科大学）

高山 和郎（東京大学医学部附属病院）

田中 永昭（枚方公済病院）

中村 二郎（愛知医科大学）

星野 ゆかり（やまと内科クリニック）

松島 由実（岡波総合病院）

水野 美華（原内科クリニック）

（委員長以下 五十音順）

在宅版 ストラクチャーバンドルの目的と説明

- 在宅版 ストラクチャーバンドルは、原則として糖尿病患者の注射療法に関する、以下の注射療法に携わる人たちの針刺し・切創による感染を防止するために在宅での状況（体制、物品、環境など）を評価することを目的としています。
- 在宅における状況の評価はいずれも医療従事者が実施します。
- 状況（体制、物品、環境など）の評価は医療従事者から見て、各対象となる人たちがそれぞれの項目を実施できる状況が整っているか、を評価してください。

対象者	対象者の詳細	評価する状況
① 医療従事者 	糖尿病患者の注射療法に携わる医療従事者全般 例) 糖尿病患者の注射介助が可能な医療従事者（医師、看護師、薬剤師など）	- 医療従事者（）の状況 - 医療従事者ではないが注射介助に関わる人（）の状況 - 医療従事者ではなく、注射介助に関わらないが、注射針の廃棄に関わる人（）の状況
② 注射介助に関わる人 	医療従事者ではないが糖尿病患者の注射介助に関わる人 例) ケアマネージャーや介護関係者の職員の方、介助者および保護者、家族	—
③ 注射針の廃棄に関わる人 	医療従事者ではなく、注射介助に関わらないが、注射針の廃棄に関わる人 例) ヘルパー、清掃業者など	—

チェックボックスの説明

- それぞれの項目に該当しているかどうかを原則として「Yes」「No」で記録します。

実施率の算出方法

- 実施率の欄には各項目ごとに「Yes/No」の総数を分母とし「Yes」の数を分子として算出します。

I 注射手技

① 	I-①-1	インスリン注入器（薬剤：インスリンペン型注入器、カートリッジ、バイアル、針付きペン型注入器 針：インスリン注入器用注射針、インスリン専用シリンジ、インスリンポンプ構成）の医療従事者用の針刺し・切創時の感染を防止するための基準手順・マニュアルがある。	☐ Yes ☐ No
	I-①-2	安全機構のついた注射針を導入している。	☐ Yes ☐ No
	I-①-3	安全機構のついた注射針を導入していない場合、注射針をペン型注入器から外す際、専用補助具や針リムーバー付きの鋭利器材専用廃棄容器を使用している。	☐ Yes ☐ No
② 	I-②-1	インスリン注入器（薬剤：インスリンペン型注入器、カートリッジ、バイアル、針付きペン型注入器 針：インスリン注入器用注射針、インスリン専用シリンジ、インスリンポンプ構成）の医療従事者用の針刺し・切創時の感染防止策について説明している。	☐ Yes ☐ No
	I-②-2	使用済みの注射針による針刺し・切創時の対処法を説明している。	☐ Yes ☐ No
	I-②-3	注射針の着脱を介助する際には、注射針をペン型注入器から外す際、専用補助具や針リムーバー付きの鋭利器材専用廃棄容器を使用している。	☐ Yes ☐ No

II 教育

①		II-①-1	医療従事者が患者に注射するための糖尿病治療専用の注射手技教育方法の施設ごとの基準手順・マニュアルがある。	☐ Yes ☐ No
		II-①-2	医療従事者が患者に注射するための糖尿病治療専用の注射手技教育方法の施設ごとの基準手順・マニュアルは施設で統一されたものを使用している。	☐ Yes ☐ No
		II-①-3	糖尿病注射手技練習用の教育プログラムがあり、対象の医療従事者は全員受講できるように設定されている。	☐ Yes ☐ No
		II-①-4	II-①-1～II-①-2で示した基準手順・マニュアル以外にも自己注射教育ツール（注射ローテーションシート、人工皮膚モデルなどの練習用物品）を用意している。	☐ Yes ☐ No
		II-①-5	医療従事者に注射針およびインスリン専用シリンジを再使用しないように教育している。	☐ Yes ☐ No
		II-①-6	患者向けの自己注射練習方法や手順の見直しを定期的に行っている。	☐ Yes ☐ No
		II-①-7	患者および介助者（保護者）への自己注射練習後、注射手技のフォローアップを定期的に行っている。	☐ Yes ☐ No
		II-①-8	針刺し防止のための基準手順・マニュアルがあり、全職員に周知徹底されている。	☐ Yes ☐ No
②		II-②-1	注射教育ツール（注射ローテーションシート、人工皮膚モデルなどの練習用物品）を活用して教育を行っている。	☐ Yes ☐ No
		II-②-2	注射針およびインスリン専用シリンジを再使用しないように教育を行っている。	☐ Yes ☐ No
		II-②-3	自己注射方法を定期的に確認している。	☐ Yes ☐ No
③		II-③-1	自己注射の見守り時は使用済みの注射針を安全に廃棄するところまで見守るよう周知している。	☐ Yes ☐ No
		II-③-2	在宅医療廃棄物の廃棄方法、手順について基準手順・マニュアルの所在を随時把握している。	☐ Yes ☐ No
		II-③-3	注射針を安全に処理する方法を周知している。	☐ Yes ☐ No

III 廃棄

①		III-①-1	注射針などの廃棄に使用する鋭利器材専用廃棄容器を持参するか、患者に専用の回収容器もしくはしっかりとフタのできる硬い耐貫通性容器などを準備してもらった上で、在宅にて注射療法を実施するよう教育している。	☐ Yes ☐ No
		III-①-2	インスリン専用シリンジの使用後は、リキャップせずに廃棄するよう教育している。	☐ Yes ☐ No
		III-①-3	ペン型注入器による注射後の注射針の廃棄は、針刺し・切創を起こさないための対策を講じている(安全機構のついた注射針の使用や各患者専用の注射針着脱用の補助具を利用、針リムーバー付きの鋭利器材専用廃棄容器の使用など)。	☐ Yes ☐ No
		III-①-4	持参した鋭利器材専用廃棄容器は、容量の8割程度を目途に、新しい廃棄容器へ交換している。	☐ Yes ☐ No
②		III-②-1	針刺し・切創を起こさないために、注射針をペン型注入器から外す際、専用補助具や針リムーバー付きの鋭利器材専用廃棄容器を使用するよう教育している。	☐ Yes ☐ No
		III-②-2	使用済みの注射針は一般家庭ごみに捨てたりせず、専用の回収容器もしくはしっかりとフタのできる硬い耐貫通性容器などに廃棄するよう教育している。	☐ Yes ☐ No
		III-②-3	一般家庭ごみとして廃棄してはいけない在宅医療廃棄物[使用済みのインスリン注入器(薬剤:インスリンペン型注入器、カートリッジ、バイアル、針付きペン型注入器 針:インスリン注入器用注射針、安全機構のついたペン型注入器用注射針、インスリン専用シリンジ、インスリンポンプ構成部品)]について教育している。	☐ Yes ☐ No
		III-②-4	使用済みの注射針を廃棄した専用の回収容器もしくはしっかりとフタのできる硬い耐貫通性容器などの在宅医療廃棄物の収集・回収方法について、パンフレット「正しく捨てて?在宅医療廃棄物」 ¹⁾ を活用するなどして教育している。	☐ Yes ☐ No
		III-②-5	外出先で使用した在宅医療廃棄物の廃棄・管理方法(公共の場には捨てないで、持参した廃棄容器に入れて持ち帰る)について教育している。	☐ Yes ☐ No
③		III-③-1	針刺し・切創を起こさないために、注射針をペン型注入器から外す際、専用補助具や針リムーバー付きの鋭利器材専用廃棄容器を使用するよう周知している。	☐ Yes ☐ No
		III-③-2	自己注射が可能な場合、使用後の注射針はリキャップして廃棄していることを見守るよう周知している。	☐ Yes ☐ No
		III-③-3	使用済みの注射針は一般家庭ごみに捨てたりせず、専用の回収容器もしくはしっかりとフタのできる硬い耐貫通性容器などに廃棄するよう周知している。	☐ Yes ☐ No
		III-③-4	使用済みの注射針を廃棄した専用の回収容器もしくはしっかりとフタのできる硬い耐貫通性容器などの在宅医療廃棄物の収集・回収方法について、パンフレット「正しく捨てて?在宅医療廃棄物」 ¹⁾ を活用するなどして周知している。	☐ Yes ☐ No
		III-③-5	外出先で使用した在宅医療廃棄物の廃棄・管理方法(公共の場には捨てないで、持参した廃棄容器に入れて持ち帰る)について周知している。	☐ Yes ☐ No
		III-③-6	清掃中に注射針を発見したときは、ピンセットなどを利用し、手で直接触れないよう周知している。	☐ Yes ☐ No

参考資料 1) 公益社団法人日本糖尿病協会(編)、廃棄物適正処理啓発パンフレット「正しく捨てて?在宅医療廃棄物」
https://www.nittokyo.or.jp/uploads/files/waste_leaf_tri-fold_2022.pdf
 (参照2023年6月19日)

二次元コード→



IV 針刺し・切創時の対応

【平常時からの対応】

①		IV-①-1	針刺しや切創が発生してすぐに、報告や相談ができるシステムがある。	☐ Yes ☐ No
		IV-①-2	針刺し・切創の感染対策は、担当部門や担当者を明確にした上で行っている。	☐ Yes ☐ No
		IV-①-3	針刺しによるHBV感染を予防するため、使用後の注射針を取り扱う人がウイルス抗体を獲得する取り組みを行っている。	☐ Yes ☐ No
		IV-①-4	針刺し・切創の予防対策に関する基準手順・マニュアルがある。	☐ Yes ☐ No
		IV-①-5	使用後の注射針を取り扱う人を対象に、針刺し・切創の危険性や予防対策についての教育を実施している。	☐ Yes ☐ No
		IV-①-6	職員による針刺し・切創が発生した場合、報告や相談できるシステムを職員に周知している。	☐ Yes ☐ No
		IV-①-7	職員による針刺し・切創が発生した場合、当該者のウイルス抗体の有無を速やかに確認できる体制を整えている。	☐ Yes ☐ No
		IV-①-8	職員による針刺し・切創が発生した場合、可及的かつ速やかに受診するなど、事後措置体制を整備している。	☐ Yes ☐ No

【針刺し・切創発生時の対応】

①		IV-①-9	職員による針刺し・切創が発生した場合、その要因を分析して改善策を講じている、もしくはその体制を整えている。	☐ Yes ☐ No
		IV-①-10	職員による針刺し・切創が発生した場合、その状況や事後措置の記録を保管している、もしくはそのシステムを整えている。	☐ Yes ☐ No

注射手技	項目/ 6項目	実施率	%
教育	項目/ 14項目	実施率	%
廃棄	項目/ 15項目	実施率	%
針刺し・切創時の対応	項目/ 10項目	実施率	%
在宅版 ストラクチャー合計	項目/ 45項目	実施率平均	%

糖尿病患者の注射針を取り扱う可能性のある方のためのチェックシート

目的

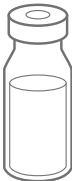
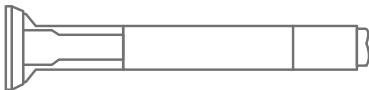
- ・ 糖尿病患者の注射療法に関わる方の針刺し・切創防止を目的に、注射介助に関わる方や注射針の廃棄に関わる方（医療従事者でない）の取り組み状況を確認、改善する。

使用方法

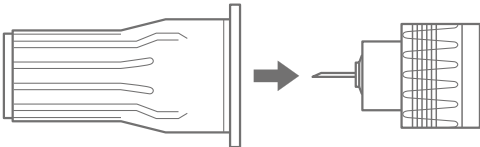
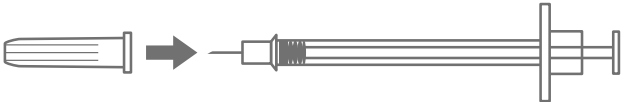
- ・ 各項目について「Yes」「No」「該当せず」のいずれかに✓をつける。
- ・ 「No」の項目について改善策を検討し取り組む。

①	使用済みの注射針の取り扱い方法や廃棄方法についての説明書を受け取り、その内容の説明を受け、理解した。	☐ Yes ☐ No
②	自己注射の介助や使用済みの注射針を取り扱うときは、血液が付着しないよう、使い捨てのビニール手袋を着用している。	☐ Yes ☐ No
③	使用済みの注射針をペン型注入器から外すときは、注射介助に関わる方が針で手を刺さないようにするため、専用の補助具（リムーバー等）を使用している。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
④	患者自身で使用済みの注射針を取り外すことができるときは、注射針に針ケースをかぶせて（リキャップして）安全に取り外すことができているか、針がむき出しのまま捨てたりしていないか、確認している。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
⑤	使用済みの注射針は、家庭用の一般ごみとして廃棄してはいけないことを知っている。	☐ Yes ☐ No
⑥	使用済みの注射針回収作業に携わる方の針刺しを防ぐために、専用の回収容器、もしくはしっかりとフタのできる硬い容器（耐貫通性）に、使用済みの注射針を廃棄している。またはそれを確認している。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
⑦	使用済みの注射針を入れた容器は、かかりつけの医療機関に持参するなど、決められた方法で回収されている。またはそれを確認している。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
⑧	外出先で使用した注射針は公共の場所（ホテル、公衆トイレ、飲食店等）には捨てず、持ち帰っている。またはそれを確認している。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
⑨	使用済みの注射針を発見したときは、ピンセットなどを利用し、手で直接触れないように処理している。	☐ Yes ☐ No
⑩	使用済みの注射針による針刺しや切創（切った、傷ついた）したときは、速やかに刺した部位や傷ついたところを流水で洗い流すなどの対処法について説明を受けた。	☐ Yes ☐ No
⑪	使用済みの注射針で針刺しをしたときは、速やかに勤務先に報告し、病院を受診するなどし医師の判断に従った。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず
⑫	家族が使用済みの注射針で針刺しをした場合は、患者本人が病院を受診する際に、担当医師に相談した。	☐ Yes ☐ No ☐ 該当せず

薬剤

インスリンペン型注入器	
カートリッジ	
バイアル	
針付きペン型注入器	

針

インスリン注入器用注射針	
安全機構のついたペン型注入器用注射針	
インスリン専用シリンジ	
インスリンポンプ構成部品（一例）	